



縄文ファッションストリート参加者募集中
だヨ!「広報みと」8月15日号を見てネ!



水戸の時空を ひとまたぎ

第6回

瓦の傷から大発見?

古代の寺である台渡里廃寺から出土した瓦の中に、「蓮華文」や「唐草文」など、美しい文様が施された瓦があります。今回は、その瓦の文様や、「傷」にまつわるお話を紹介します。

問合せ／埋蔵文化財センター

(☎269・5090)



- ①素縁単弁二十葉蓮華文軒丸瓦(台渡里廃寺跡出土、常陸国分寺出土と同范瓦)
- ②軒丸瓦の木製范(複製品、香川県三豊市宗吉瓦窯展示資料)
- ③上：蓮華文軒丸瓦 下：唐草文軒平瓦(石岡市瓦塚窯跡(※)出土)
(※)常陸国分寺瓦の生産遺跡。



寺などの屋根の軒先を飾る瓦には、蓮華文や唐草文など、美しい文様が施されています。これらの文様のデザインは、仏を象徴する植物です。瓦の文様は、木製の型に粘土を詰めて作ります。型を使用することで、同じ文様の瓦を大量生産できるのです。瓦の型を「范」と呼び、同じ范で作った瓦を「同范瓦」と呼びます。

離れた二つの遺跡で、同范瓦を確認できた例があります。水戸市内の台渡里廃寺の瓦が、石岡市内の常陸国分寺の瓦と同范だったのです。平安時代、寺の瓦はそれぞれの行政区が管理する窯で作られるのが一般的。常陸国分寺の瓦が、台渡里廃寺で見られることはないはずでした。

当時、国の寺だった常陸国分寺。なぜ、その瓦が地方の寺である台渡里廃寺に渡ったのか。それを考えると、二つの寺の強い関係性が見えてきます。常陸国分寺の造営や補修に、台渡里廃寺に關係する那賀郡の職人が積極的に協力した事実を裏付けることができるのです。

ただ、一見同じ文様に見えても、同范瓦とは限らない場合もあります。同范瓦かどうかを確かめる証拠となるのが、型である范の「傷」です。范は木製で、長く使用すると当然傷ができます。この傷が、瓦の文様にも写し出されることで、同范瓦であることの動かぬ証拠となるのです。同范瓦をとおして、当時の職人の技術や、地域間の交流が明らかになります。これも古代の職人が、傷んだ范を捨てずに、大切に使用してくれました。

埋蔵文化財センター 新垣清貴

ダイダラボウのひとりごと ～アナログの技術もすごいんだぞ!～

現場作業のあとは、大量に出た遺物についての記録を残すため、発掘調査の成果をまとめた一冊の報告書をつくるよ。その整理作業では、土器や瓦の文様を正確・鮮明に記録できる「拓本」という方法が役に立つんだ。

拓本は、今から千年以上前から中国で行われていたよ。遺物に湿らせた紙を当て、綿で黒い墨をやさしく押し当てると鮮やかに文様が現れる仕組み。写真では見えないような表面の凹凸までわかるか



拓本作製の様子

ら、デジタルの技術が進んでも、アナログの技術だって負けてないなあ…と実感するよ。完成した拓本は、報告書の中で、正確な大きさを記録する実測図と並んで掲載されるんだ。ながく活用される資料になるんだよ。



今月のダイダラボウSの趣味は、温泉巡り。「拓本」について教えてくれるよ。

令和3年9月1日号
第1509号

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
ホームページ / <https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・224・5188
☎029・224・5188 kounou@city.mito.jg.jp